

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	福島こども支援・八王子
支援対象者・エリア	福島県
企画開催地	東京都町田市立大地沢青少年センター
企画名称	2018 夏休み ふくはち親子交流合宿
実施期間	2018年8月5日（日）～8（木）3泊4日

支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

- ・震災直後、八王子の有志でその中で福島の方を招くなどし、厳しい環境で暮らさざるを得ない子どもたちや、家族の健康について苦しみ悩みながら日々を送る母たちの現状を知りました。その後子供達の自然遊び、親子の交流合宿という形でこれまでに12回保養合宿を開催してきました。
- ・福島市、二本松市、郡山市、いわき市などから、大人17名、子ども30名の計47名の親子を、町田市大地沢青少年センターに招き、大地沢で外遊びを中心に、ミニライブや紙芝居など。保護者向けには学習会・交流会・ケアプログラム、を開催し交流を深めました。
- ・よちよちの2歳児から小学生高学年まで、子供達は沢でサワガニとりや生き物探しに夢中でした。街中では除染が進み安全になったと言われている福島ですが、未だ川や雑木林などまだまだ線量が高いところもあり、普段から子供が遊ぶことを禁止したり不安を抱えたまま遊ばせることのストレスが大きく、大池沢で思い切り川遊びができたことが、子供達はもとより「親にとってもとても幸せでした」との感想が多くありました。
- ・お母さん向けのプログラムでは、子供から離れて親同士ゆっくり交流でき、福島に帰ってからも心配事はあるけれど、頑張っていきたいとの感想が多くありました。初めての参加のお母さんからも、小さい子への保育も親向けのサポートもありとてもリラックスして参加できたとの感想があり、日頃の不安を話したり連絡先を交換するなど交流が深まりました不安を抱えた親たちはストレスと不安を抱えながらも話す場がなく相変わらず孤立化しているようで、保養を続けて欲しいとの声が多いです。
- ・今回も学生ボランティアが多く参加してくださり、思い切り遊んでくれる学生さんたちに子供達も大喜びで、子供を見守る親たちも大変喜んでくれました。同時に、原発事故当時小学低学年だった学生さんたちにとって、原発事故のことは教科書の中での出来事のようで、関心も薄く他国のことのように感じている学生さんも見られましたが、福島のお母さんや子供達と接することで、事故のことやその影響について実際に肌で感じることができ、様々な気づきを得る機会になったようです。

活動の様子（写真など）

